

令和7年度 水資源調査特別委員会 行政視察実施報告書

1 視察日程

令和7年10月22日（水）～10月24日（金）

2 視察先及び調査事項（詳細は別紙のとおり）

大阪公立大学

- ・地下水管理政策について

福井県大野市

- ・地下水保全と水資源を活用した取組について

3 参加者

委員長 伊藤 孝司

副委員長 西坂 壽

委員 黒川 理恵子

柳原 政彦

越智 由美子

高橋 淑子

井上 浩二

真鍋 顕伸

越智 俊幸

武田 功

議長 川又 由美恵

副議長 三好 和彦

(別紙)

視察先	大阪公立大学
視察日時	令和7年10月22日(水) 13時00分～14時30分
視察目的 (視察先選定理由)	本市の地下水保全及び適正利用審議会委員、地下水法システム研究会委員である大阪公立大学大学院現代システム科学研究科現代システム科学専攻、遠藤崇浩教授が研究している地下水管理政策の中で、地下水保全の施策、特に本市に豊富な地下水の災害時の利用について、今後、政策立案等に生かすため、調査・研究を行う。
調査概要	<p>○ 地下水管理政策について</p> <p>1 地下水保全の研究事例について 高度経済成長期以降の地下水問題と国による法管理、地下水法システム、地方行政が策定する流域水循環計画について説明があった。 全国で84の流域水循環計画が策定されているが、計画の中に地下水についての記載があることが本市の大きな特徴であり、本市が特に地下水との関わりが大きいことが伺える。</p> <p>2 災害時における地下水利用(災害用井戸)の研究事例について 令和6年能登半島地震の発災直後の水確保の現状と地下水の利用形態、また、地下水利用の必要性について説明があった。 被災地では、停電は3日から4日で復旧したが、断水が復旧するまでには相当の日数を要していることから、被災時の水確保の必要性、特に、本市の豊富な地下水を活用した井戸の設置とその所在を示す周知など、災害に備えた日頃の備えが重要であることを再認識した。</p>
所感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>西条市地下水の保全及び管理並びに適正な利用に関する条例の特徴は地下水を意識していることであり、これは本市の地下水に関する意識が他の自治体に比して大きいことの表れである。同条例の第4章、第3節の災害時において、災害時の地下水利用に係る条文が少ないため、もっと踏み込んだ内容を記載し、実施に向けて積極的に取り組むべきであると感じた。</p> <p>地下水の課題については、さまざまな観点から取り組む必要があるが、特に本市は地下水を飲料水として利用していることから、地下水の水質保全にいつそう取り組む必要があること、また、本市自慢の地下水(うちぬき)をしっかりと守り、次世代につなぐことが重要であると感じた。</p>

その他

視察の様子



(別紙)

視察先	福井県大野市（人口 30,137人、面積 872.43km ² ）
視察日時	令和7年10月23日（木）13時30分～15時00分
視察目的 （視察先選定理由）	大野市では本市同様に、大部分の家庭や事業者において各自でポンプにより地下水をくみ上げて利用している。社会環境や自然環境等の変化により、地下水量の減少が危惧された大野市が、産業政策等の中で水環境保全のために行っている先進的な事例について調査・研究を行う。
調査概要	<p>○ 地下水保全と水資源を活用した取組について</p> <p>1 大野市水循環基本計画について</p> <p>（1）計画の概要について</p> <p>本市と同様に一つの自治体内で地下水の流れが完結している大野市であるが、高度経済成長期の繊維工業の発展や積雪地帯であるがゆえの融雪対応、農業基盤の整備による浸透量の減少などが要因による地下水量の減少という大きな問題を解消するため、市民と行政による協働の取組を開始。これまでの計画（大野市地下水保全管理計画、越前おおの湧水文化再生計画）を統合して水環境の健全化に向けた大野市水循環基本計画を令和3年に策定。「健全な水循環による、住み続けたい結のまちの実現」を基本理念に「流域マネジメントの推進」「水循環に関わる人材の育成と水文化の継承」「災害や気候変動、地下水障害等への対応」を基本方針としている。</p> <p>（2）地下水資源の現状について</p> <p>土地利用の変化や人口減少、地球温暖化に伴う気候変動などの要因が流域の水循環に影響を与えており、地下水位や親水性の低下などさまざまな問題を引き起こしている。</p> <p>洪水や地球温暖化の防止に寄与する貯留・涵養機能の維持・向上など、健全な水循環への取組を通じた安全・安心な社会の実現が求められている。</p> <p>（3）貯留・涵養機能の維持・向上について</p> <p>ア 森林について</p> <p>林業の活性化策として、スマート林業による作業の省力化と効率化、林業従事者への育成支援などを通じ、森林による貯留・涵養機能の維持を図っている。</p> <p>イ 河川等について</p> <p>ダム放流（フラッシュ放流）に関し、流量と時期の調整による渇水対応の実施、河川の攪乱などによる水際掘削の実施、土砂の浚渫と河道内の雑木の伐採などにより河川環境の改善に取り組んでいる。</p> <p>ウ 農地について</p> <p>水田湛水面積の拡大、冬季湛水の効果検証とその支援の実施、農地の集約・集積の推奨とスマート農業導入による農業経営体の強化</p>

	<p>などに取り組んでいる。</p> <p>(4) 課題と今後の取組について</p> <p>間伐などの森林整備面積が減少傾向、水洗化率の向上が図られていない、水に関する意識等が課題。今後は上下水道の再構築、発電の促進、流域総合水管理等に取り組む。</p> <p>2 越前おおの水のがっこうについて</p> <p>産学官民が連携し、水の学習・研究、水環境の保全・継承、水のブランド化を3本柱に水について総合的に学べる施設である。具体的には、図書室・研究成果の閲覧、子どもたちや市民を対象にまちなか遠足事業・s u i s u i 課外授業等の開催、水まつり等のイベントを実施し、水に関しての普及・啓発に努めている。</p>
<p>所感 (意見・感想・今後の課題等)</p>	<p>大野市では、豊かであった水事情が、産業構造の変化や積雪地帯であるがゆえの冬季の地下水量の減少などにより、水環境の悪化が顕著となったため、その時々への対応ではなく根本的な解決のため、大野市水循環基本計画を策定し、各種産業を巻き込んだ健全な水環境の実現に向け取り組んでいる。</p> <p>本市は石鎚山系に降った雨が瀬戸内海に流れるという一つの自治体内で水の流れが完結する貴重な自治体である。それがゆえに、市民一人一人の意識・行動によって水環境はよくも悪くもなるという大きな責任も担っている。このため、将来にわたる地下水の水質保全と健全な水環境を維持するための政策立案等に今以上に取り組む必要があると感じた。</p>
<p>その他</p>	<p>視察の様子</p> 